第７１回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

東京都立国際高等学校 ３年
馬殿 凌太

課題③
持続可能な開発目標(SDGs)に続く次の目標を掲げるとしたらどんな項目を入れるべきと考えるか。

副題
なし

持続可能な開発目標。この最大の目的は、世界中の人々にとって理想的な社会を創り上げることだ。これは、二〇三〇年までに達成されるべき一七にも及ぶ項目によって構成されているが、仮に一八個目の目標を掲げるとするならば、私は「偏りのない情報を」と加える。

現代は言うまでもなく、情報社会である。数多な情報が交錯する世の中において、正確な情報をキャッチする能力、ネットリテラシーが、現代人には求められているが、それは非常に難しいことであると、私は考えている。その要因のひとつに、フィルターバブルというものがある。

総務省のホームページによると、フィルターバブルとは、『アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境』のことを指す。インターネット上の各プラットフォームでは、このように限定的で偏りのある情報の表示が優先され、それが真実かどうか、信じることさえも難しいのが現状である。

例えば、現在世界中で起こっている紛争・戦争。パレスチナ問題やウクライナ侵攻、アフガニスタンなど、各メディアが主に取り上げられるものとは他に、多くの争いが起きているのは事実だ。しかし、「紛争」と検索エンジンに掛けたとして、それらが上位に表示されることは、まず無い。フィルターバブルによって、世間に一般的に知れ渡っている争いが優先的に表示されてしまうからだ。

先日、ジョナサン・グレイザー監督による、『関心領域』という映画を観た。舞台はホロコーストの時代。アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所の所長を務めるルドルフ・フェルディナント・ヘスとその家族が、収容所の隣で平和に暮らす様子を描いているのが本作品である。タイトルにもある通り、この映画では「関心」が大きなテーマとなっており、多くのユダヤ人が迫害を受けている横で穏やかに暮らす彼らの、恐ろしいほどの無関心さが間接的に表現されている。そしてこれには、現代社会にも通ずるものがあるのではなかろうか。

世間的に認知度の低い紛争について先程少し触れたが、それらが起こっているという事実を知っているのにもかかわらず、詳細は知らない。いや、知ろうとしない。これこそが現代人のリアルなので

はないだろうか。

しかし、そのリアルを私たちは自らのせいにする必要は無いと考える。情報社会がフィルターバブルによって偏りのあるものへと変貌し、各メディアが取り上げたいと思っている紛争に関する情報のみが次々と表示されるからだ。正確かつ、現状認知度の低い状態にある紛争を知るには、今はそれらに関心を示すしか方法は無く、たとえ無関心であってもおかしいことでは無い。

自ずと関心を示さなければ拾うことのできない情報は、数えきれないほど現代に埋まっている。そのため、そのような紛争は支援が不十分となる可能性だっていくらでもあり得るし、悪化する一方であるかもしれない。

持続可能な社会を築くためには、すべての情報が平等に、正確に人々に伝わるようにする義務がある。だからこそ、フィルターバブルという偏りのある環境を改善し、偏りのない情報社会を構築する必要がある。これは、場合によっては人々の生命に関わる可能性だってある。理想的な社会に必要な情報環境を、一刻も早く整備するべきだ。